

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元
佐野市教育センター
佐野市上羽田町 1134 番地 1
電話 20-3108
20-3048(相談専用)

年度末のお忙しい中、大型提示装置の設置では大変お世話になりました。各校のご協力により、計 203 台の電子黒板と液晶ディスプレイを無事に設置することができました。各教室で積極的にご活用いただきたいと思えます。

さて、今年度最後の GIGA 通信では、葛生小学校で行ったオンラインでの海外の日本人学校との交流授業の様子をご紹介します。

『海外の学校とオンラインで国際交流』

(葛生小)

葛生小の 2 年生がオンラインで交流したのは、オーストラリアのシドニー日本人国際学校の 2 年生です。担任の先生の同期の先生がこの学校にお勤めになっていることから、交流授業が実現しました。

①交流授業には Zoom を利用

交流授業は Zoom を利用して行いました。日本からシドニーまでの距離は約 7900Km、時差は 2 時間ありますが、画像や音声は乱れることなく、授業はとてもスムーズに進みました。



②交流を通して互いの文化や考え方の違いを理解

授業の展開は、双方の担任がメールで確認しました。また、相手校の児童の紹介を教室に事前に掲示することで、児童の交流への意欲を高めました。Zoom の動作確認もしっかり行い、入念な準備のもと、交流授業が始まりました。

1. めあての確認
2. 挨拶をする。
3. シドニー日本人国際学校が学校紹介をする。
4. 葛生小が学校紹介をする。
5. もっと知りたいことを互いに質問し回答する。
6. まとめと振り返り

学習活動 3・4 で、児童たちは「校舎案内」、「一日の流れ」、「行事」をテーマに、自分の学校を紹介し合いました。「シドニーの学校では『モ

ーニングティー』というお茶とお菓子を食べる時間があること」を知って葛生小の児童が驚いたり、「日本の学校には登校班があり、みんな歩いて学校に行くこと」を知って日本人学校の児童が驚いたり、遠足やなわとび検定はどちらの学校にもあることを知って、お互いなぜか安心したり。学校紹介を通して、児童が互いの文化や考え方の違いを感じ、「相手のことをもっと知りたい!」という思いを強くしていることが、参観者にも伝わってきました。

登校時のスタイルで一日の流れを説明する児童。シドニーの子供たちは興味津々です。



「学童はありますか？」

「学童って何??？」

「学童というのは…です。」

学習活動 5 では、両校の児童からの質問が止まりません。「全校で何人ですか?」「校庭にはどんな遊具がありますか?」「授業で水泳はありますか?」どちらの児童も、疑問に思ったことを積極的に質問し、自信をもって自分の学校のことを発信していました。

授業を終えた先生は、「子供たちが自分から学び・関わり・発信することができた学習でした。子供たちも私もとても楽しみながら交流授業を行うことができ、とても貴重な体験でした。この学習が、子供たちにとって異文化理解の第一歩になってくれたらいいなと思います。そして、自分とは違う文化を受け入れたり交流の幅が広がったりするよう、これからも継続した支援をしていきたいです。」と話されていました。

